

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520073

研究課題名（和文）東西の靈性における愛の思想史—古典文献に見るユダヤ・キリスト教の愛と  
仏教の慈悲研究課題名（英文）A History of Thought on Love in the East—West Spirituality — Love in  
Judaism, Christianity, and Charity in Buddhism Based on the Classical Literature

研究代表者

須沢 かおり (KAORI SUZAWA)

ノートルダム清心女子大学・文学部・教授

研究者番号：50171195

研究成果の概要： 東西の靈性における愛の思想史を主要テーマとする本研究は、ユダヤ・キリスト教の「愛」と仏教の「慈悲」についての思想史的比較研究を行ない、原典に忠実に比較思想学の方法論を踏まえつつ、愛について言及されているテキストを異なった文化圏・言語の文献に照らして解説し、東西の靈性に共通する基盤と相違点を探るものである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	420,000	3,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード： 靈性、思想史、ユダヤ・キリスト教、仏教、愛、慈悲、宗教言語、聖書

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで比較思想、キリスト教靈性史の分野で一つの根幹をなすテーマとして、愛の思想史に関心をもっていた。『エディット・シュタイン—愛と真理の炎』、『愛のおもむくまに』、『現代社会における靈性と倫理—宗教の根底にあるもの』などの著書を出版してきたが、本研究はこの延長線上に立ち、ユダヤ・キリスト教と仏教における愛の思想史を比較研究しようとするものである。先行研究が比較的乏しいテーマであり、単なる文献学的研究の域を越え、近代における「愛」の思想の行方とポストモダ

ンの思想の潮流における愛の理解、共同体論、愛の実践などの現代的なテーマへの接点を探ることも本研究の課題である。

## 2. 研究の目的

(1) ユダヤ教古典文献、ヘブライ聖書における「愛」について理解するために、まずキリスト教における「愛」の思想史的発展の土台となったユダヤ・ヘブライ思想の「愛」についての理解を主

にヘブライ聖書とラビ古典文献（タルムード、ミドラッシュ等）を中心に解析する。捉、要求、教えとしての愛の特徴を明らかにする。

（２）新約聖書に見られる「愛」（アガペー）について、伝統的なユダヤ教を超えるものとしてどのような点にその特質があるのか、テキストにそくして明らかにする。比較思想史的な観点から「愛」をめぐる理解についてユダヤ・ヘブライ的なものとキリスト教的なものの交差する点、また相互の緊張関係について論じる。

（３）ギリシア・ラテン思想における愛の思想史の発展におけるギリシア哲学とキリスト教思想の交わる点について論ずる。

（４）キリスト教の「愛」の神秘主義と仏教的「慈愛」に共通する思想的文脈を解析し、両者の類似する点、相違点について明らかにし、国際的な学術集会の場で発表する。

### 3. 研究の方法

#### （１）資料の収集と複写、および解読

本研究において、研究代表者または海外共同研究者のいずれか一方が、それぞれの文献の原典にあたった。研究代表者の須沢は仏教関係の漢語、日本語文献、ヨーロッパ現代語、中高ドイツ語、ラテン語を担当し、海外共同研究者のReinhrad Neudeckerはヘブライ語、ギリシア語、ヨーロッパ主要言語による文献を担当した。テキストそのものとの対話、すなわちテキストが指示し、展開する世界に参入し、それを共有することによって披かれてくる新しい聖書、古典文献の読み方を東西の文献比較において提示しようとする方法は、本研究の核を形成している。

#### （２）文献・資料の選択・抽出

ヘブライ語聖書、ユダヤ教文献（タルムード、ミドラッシュ）、キリスト教神秘思想の文献のなかから、愛に関する叙述、テキストを抽出する。ヘブライ聖書においては、特にレビ記と雅歌を取り上げ、新約聖書は「愛」という言葉が使われて

いる主な箇所を抽出し、テキストの構成、動詞の態、頻出する比喩、隠喩ならびにイメージを検討し、ユダヤ・ヘブライの文化と宗教において、また、キリスト教において「愛」がどのように理解されているかについて検討した。

#### （３）関係資料の解読と分析、研究計画のレビュー

大乘仏教の漢訳文献、浄土真宗の聖典、親鸞、道元、日蓮の著作を解読し、「慈愛」、「慈悲」、「大悲」、「慈」の意味内容について検討した。ヨーロッパ中世の神秘家の著作については原典を収集し、中世ドイツ語、高地ドイツ語の特殊文字の写本、書物の解読にあたっては、日本ではこの分野の専門家の養成がなされていないため、ドイツ・フライブルク大学のキリスト教宗教学研究所の教員とスタッフから指導、専門的知識の提供を受けた。

（４）本研究全般にわたって、海外共同研究者のReinhard Neudecker（教皇庁立聖書研究所）の協力を得、共同研究者は平成18年、19年の夏に来日し、研究代表者と学術的な討議、意見の交換をし、共著論文を発表した。

### 4. 研究成果

（１）ヘブライ聖書、ユダヤ教文献（タルムード、ミドラッシュ）、キリスト教神秘思想の文献のなかから愛に関する叙述、テキストを抽出した。ヘブライ聖書においては、特にレビ記と雅歌を取り上げ、新約聖書は「愛」という言葉が使われている主な箇所を抽出し、テキストの構成、動詞の態、頻出する比喩、隠喩ならびにイメージを検討し、ユダヤ・ヘブライの文化と宗教において、また、キリスト教において「愛」がどのように理解されているかについて検討した。ユダヤ教においては、「愛」は基本的に同族であるユダヤ人との関わりにおいて捉えられており、隣人愛も仲間、同族間での愛を意味する

のに対して、キリスト教は血縁、同族を越えた普遍的な愛が強調されている。敵をも愛する愛はキリスト教のアガペーの愛との関連で理解される。また、ユダヤ教、キリスト教はヘブライ思想の二潮流であるにもかかわらず、聖書的な「愛」(アガペー)には新約聖書おけるギリシア的な考え方との拮抗関係が見られ、本来、ヘブライ思想から枝分かれしたキリスト教思想とは異質の考え方が導入されていることが明らかになった。

(2) 大乘仏教、浄土真宗の文献を解読し、「慈愛」、「慈悲」、「大悲」、「慈」の意味内容について検討した。大乘仏教における観音・阿弥陀の「慈悲」、「慈愛」が上から降下するものとしてではなく、むしろ衆生への感情的な一体感が強調されている。仏教の「慈しみ」「慈愛」(原語: 梵 マイトリー=友情、友愛)とギリシア思想の「フィリア」(友愛)との類似性について比較・検討し、両者に共通点、類似点があることを指摘した。

(3) 仏教の「慈悲」、「大悲」(原語: 梵バカルナー)と新約聖書のアガペーとの内実の相関性について論究した。キリスト教における神と人との愛における一致、交わりがいわゆる西欧近代の自我関係を超克する次元で高められている点について注目し、煩悩から離れ、執着を超える普遍的次元としての仏教的な「慈愛」、「慈悲」との共通する思想的文脈を探った。仏教において「愛」という用語は、執着や欲望との関連で理解され、ユダヤ・キリスト教における愛に見られる人格的な意味をもたない。しかしながら、ニュアンスの相違はあるが、自我、己を超え出るところにおいてあらわれる世界という意味では、キリスト教的な愛の概念に親近するものが仏教的な慈悲にも見られることがわかった。

(4) 研究テーマについての情報交換と研究討議のため、研究代表者はヨーロッパに出張し、ドイツ、イタリアで資料の収集と研究者との討議による研究計画のレビュー、突き合わせを行なった。さらに、ドイツ、フライブルク大学、スイス、フリブール大学、イタリア、ローマ、教皇庁立聖書研究所において研究成果を発表する機会に恵まれた。海外共同研究者がいるイタリアはもとより、スイスとドイツにおいては、仏教関係の文献との比較において、聖書、キリスト教思想の文献を「愛」という中心的なテーマを軸にして理解し、その根底を支える宗教体験、宗教言語について研究しようとした試みはインパクトをもたらした。これらの研究発表によって、今後の共同研究への申し入れがあり、ドイツから数名の研究者から共同研究のために来日したいとの意向を示され、具体的な準備に着手した。

(5) 本研究は、比較思想、宗教対話、比較霊性の領域でもっとも重量なテーマの一つである愛をめぐる問題をテキストにそくして、文献学的に取り扱ったが、さらに今後の研究の方向として、実践的なテーマにも及ぶ関連研究への構想を着想することができ、次の研究への新たなステップを築くことができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

下線は研究代表者ならびに海外共同研究者

〔雑誌論文〕(計 5 件)

Kaori Suzawa, Reinhard Neudecker, He puts to Death and He brings to Life I: Polar Opposites in Rabbinic Judaism, Sufism and Zen Buddhism, 『ノートルダム清心女子大学紀要』文化学編 3 1 巻, 60・71 頁, 2007 年, 査読有

Kaori Suzawa, Reinhard Neudecker, According to the Level of Each and Every One: Rabbinic Commentaries on the Self-Revelation of God on Mount Sinai in the Light of Sufi and Zen-Buddhist Texts (1), 『ノートルダム清心女子大学紀要』文化学編 3 2 巻, 34・39 頁, 2008 年, 査読有

Kaori Suzawa, Reinhard Neudecker, According to the Level of Each and Every One: Rabbinic Commentaries on the Self-Revelation of God on Mount Sinai in the Light of Sufi and Zen-Buddhist Texts (II), 『ノートルダム清心女子大学紀要』文化学編33巻、29・36頁、2009年、査読有

須沢かおり、エディット・シュタインにおけるペルソナ論の射程、『人間学紀要』(上智大学人間学会)38巻、37・57頁、2009年、査読有

Reinhard Neudecker, Rabbinic Literature and the Gospels. The Antithesis of Love for One's Enemies, in: *Biblical Exegesis in Progress*, Pontifical Biblical Institute Press (Rome, Italy), pp265-297, 2009, 査読有

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 2 件)

須沢かおり他17名、『中世と近世のあいだ — 14世紀におけるスコラ学と神秘思想』知泉書館、2007年

須沢かおり他8名、『キリスト教と人権』サンパウロ、2009年

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

須沢 かおり(SUZAWA KAORI)

ノートルダム清心女子大学・文学部・教授

研究者番号: 50171195

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

### (4) 海外共同研究者

REINHARD NEUDECKER

教皇庁立聖書研究所(イタリア・ローマ)・聖書学部・教授